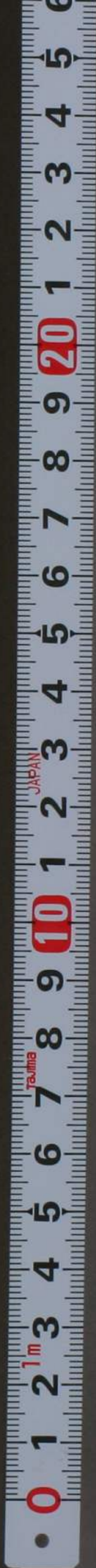




ホ 2
143
6

Handwritten Japanese text in a vertical rectangular frame. The text is written in a cursive style (sōsho) and reads: 小治政の発展 (Shōsei Seiji no Hatten). Below the main text, there are two small characters: 六 (6) and 五 (5).



Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side. The text is arranged in vertical columns and is mostly obscured by fading and ghosting.

Blank page on the right, showing signs of aging and discoloration. The paper has a yellowish-tan hue and some minor stains.

かくて上二段ハ。もと後のうごの時と結び。ぞのや何のかがはつき
 きと結ぶを。下三段も。うち久しと。もと後のかゝるの時と結び。ぞのや
 何乃かゝるの時と結び。けいすゆまはなりがう。はまぢひやう。紐統と
 才一のまの三羽後より、及び考へ合せて、さまさまふべし。

ざ ぬ 糸 才六段

○不のいまごゆぬをかりて。ふさまは志とつふ。別叶がた せてのた さて志を上
 のてふをえ結核むと。同ドくて。もと後の結びあり。上りぞのや何と
 お交てハ。おとひきぎふと。お。

せど綴せど結せどつきせど。老せぬ綴せぬつきせぬ。備せぬるとのぬ。ざとひ
 ふ時も此格を。此せと為のさとし。義小のえき道 死せぬまといつり。又保氏やふを
 うらうもまじ。又まゝ来ん。たうく小萩あまれ。あうんきど。うもあまれ。おんせし
 ねとつり。同日をむ。梅川るそ萩のうもあまれ。せとせとあまれ。

な た た 才九段

○ぬありと。上よぬいとゆ をあきてとつひ。又おとつありあつ。つをあき
 とつり。若るあも同日。

○あつてあつて。あつあつ。こほハ義染も。一つとつり。又後よとをさく
 よまぬ辞あり。たぐ古々来の比乃あまはいとく。おあり。

○一つのあつ

月のうちを新編乃梅結あわよく那と降りまきめて暮ハ来ル

千六 信房よりそくしき一紙ぞ覚りゆくきりあ

一 おしきへく花のさうりになりに

一 ありほみし言根のこぞうけホ

一 かづきやう間乃さうきり

二 みよしゆれはくこのはくさよ

三 ほくききほき家よりおり

四 けきへく山田結うきむりくホ

好忠
素 志万りハおわり結くさびうらそ

件の方々の多しハこぼきりてかきまわしそかり
とくそしあふらうとつひのちとハまきらうしり

ぬ

ぬふ

ぬき

中十九段

○けぬハいもも早ぬしゆふゆと美菜に去の字を出て。子ホぬ結ともさうく辞

あり。そのよハ。かんをむでさま。子や子どの子。又ホきホきホきホき

子ホきんをど結ホ。又ホきえぬ。ホきえぬ。ホきえぬ。ホきえぬ。皆けぬ乃

そつらたつ辞。その言のつぎまふあがひて。子ホホホホホホホホホホ

成きとよ言つきてを倒さつて。ありあんありあをどくを子とあ。ありホきありホ

ホきあどくをホとあ。ありぬとくハぬとあ。ありぬとくをぬとあ。こぼきりて子

ホぬね第一辞。さす此ホホ結と。はてとお双ぶうき。次のつづの繁りう。

○ぬべーぬありぬあをぬんぬしをどくはばあ

○ふといふきホあをぬといふ格

て。こまねとてとあぶらじ。又てぬとをぬと同じことある。

後三 かくみぎうちうでよびやまつらてぬ 花のまきはもつりこむさぐ

日十 さうしうらでやまやまー まぬ あふ板乃言わらあま海とつよあま

は二つたぬま不のまのぬうればくこの海よりうらぶ。今入てとまおあまひて
日トこまねとてとあぶら

ぬ ぬる ぬき う うら う

ま まぐで合せて十四段の事

○此十四段のてふまをばさうのへも。後世の人つみあ得るこかおられやうり
くまねまさとまをこ。そまもつけ下オ三十三段より。オ三十八段オの六段 くはつ
ふむろの
六段とあつ十四段とを同じ格ふんぬう保うじう下オ六段の言ハくもへも

岡りハきくゆくまぐのしひて。まぐゆくまぐへいふまをさるあ切く

時もづく時と日トとあ。上のかるとも後の時と。そのや何の時も。日トむ

まびある。或の十四段の言ハぬまぬま。つなつた。ふああをいふれば。

かの六段の格とハ異あて。上のてふまはあまぐひて。結びもかまるとあま。

まべくぬぬら。つづ。もま。ふあ。く。ふあ。むむ。ゆゆ。か。の。て。く

ホ下へふを添てとひ。添てとひふ相も。皆け十四段の格。くもつふむふ

とのしひき。下へふを添てハいぬ朝ハ。みま下結さ段乃格とむたへ。そ。此

十四段の格と。下六段の格とのあらめハ。あその結びとよくうらぐ。その例を

恨むと悲むと二つの言をいふ。むとけ十四段の格もあふ。そ。と。後

の結びの時をいふ。そのや何の結びの時ハ。いふ。いそ結結びの時ハ。いふ。

後拾八

くまをゆく事とをわづらふ事よやまをわすん

千十二

こひいへんをいふ事やまをわすれん

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

拾八

母中取かくりひのまをいふ事やまをわすれん

母中取かくりひのまをいふ事

日廿

まをいふ事やまをわすれん

全三

昨日よりはよまのまをいふ事やまをわすれん

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

後拾八

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

日十七

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

日十九

みやうくまをわすれん

みやうくまをわすれん

後拾十二

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

新抄二

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

源氏

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

〇らん

〇らん

後拾三

こひいへんはよ何あひいへんやまをわすれん

きん

きん

東四十一段

○よま申又てまおまておきんてきんをとりつり。お申におきんさつひのうらぐ。
てきんはさうき

万十 日がた光ともおまづつらめおそのおまおあまらう人をおまて **きん**うも

日十又 たき川あみさうくう日おらつりきとみやしお人ききうて **きん**うも

元備 事へ申人乃かこおおぢうらもまてやうて **きん**ままやうき

日 ぬくぬくのもよりにゆーやきうて **きん**うもおぢりしらのりみぢと

信明 ぬくぬくのもよりにゆーやきうて **きん**うもおぢりしらのりみぢと

○きんかみのいふおきん

右十五 よおまのいさうはーおまおととも川ーいさうとあーにみおれを **きん**

いさうはよおまのいさうはーおまおととも川ーいさうとあーにみおれを **きん**
いさうはよおまのいさうはーおまおととも川ーいさうとあーにみおれを **きん**
いさうはよおまのいさうはーおまおととも川ーいさうとあーにみおれを **きん**

○きん二つうき

右六 わらうておまのいさうはーおまおととも川ーいさうとあーにみおれを **きん**

万七 い申人乃かこおおぢうらもまてやうて **きん**ままやうき

○かんのいさうきん

右十四 日がた光ともおまづつらめおそのおまおあまらう人をおまて **きん**

日十又 たき川あみさうくう日おらつりきとみやしお人ききうて **きん**うも

元備 事へ申人乃かこおおぢうらもまてやうて **きん**ままやうき

日 ぬくぬくのもよりにゆーやきうて **きん**うもおぢりしらのりみぢと

なん

み光

舟四十三

〇つひはるんとをりてつとく

〇形よきのあんな 此換二つま。むしりよかさよなまらよりつとく

右 けしき茶かきとやういとほきよれき人のころりおてたろ **あんな**

引くあんなさうあんなふらあんなあんな
ゆらあんのうぐいおと

後 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

後 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

右 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

引くあんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

右 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

新葉 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

右 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

右 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

右 けしきへいしあぶねさよれいとまき一葉のころりおてたろ **あんな**

あんなあんなあんなあんなあんな
あんなあんのうぐいおと

りたるむてかろくあん有る。あつてつゝあんし。拾七の巻
文季は終末あつていざし。そけはんを上代あつていざし。
万士 けりてあつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

まー

こまより下うあまがハ。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

○あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。
あり。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。
そのあつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。
後世あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。
かゝりたる。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

いざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。
りあつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

○あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

○あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。あつていざし。

右 山里を秋了せふとふぶびく々々 森のなしくねふをさぬく ？

右 流波根乃赤のりごとふまどよま 喜けみやふけ辰をさひ ？

後 三 川のきふらりをもてゆん さらんむおりかげ赤のくまをさせ ？

右 又 天の川 志くたせあぞやうりあふ くるき川 傾赤種をゆき ？

右 又 志をあらうくみつうね ありけくるとおきししの名をまれ ？

右 のくぐひのつゝありにわとぞと 上へくつ格あるあふ 申ふけくも何ど ？

くもぞ。上の件はつくとむく川 あり。

右 十 喜相ふきりきく ？ けふねけ冥のこきこに身をあらうね ？

右 十二 きの光 ？ あそぐし年ゆらいつたりにいらぬんを人きまうねん ？

右 十五 月夜うなまぬ人まうらかきらりぬとあうまんふひ ？ ？ ？ ？ ？

右 六 人くまぶくやいみきくばうび ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

右 四 しく先くたきが垣根の印をさくしとえ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

とまうはくまひのつゝありとくふあひてあめ。されど上のつゝと ？

別あうにそくくは。何どつね中にかのつゝかくあめがけうらあり。 ？

さきけあぐくふあひく ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

てとりひてとよま ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

○ 下にあらうをぬく先てりひまうら ？

右 一 喜がまうたてやうつこみうけくすしせのひよをさふり ？

喜がまうたてやうつこみうけくすしせのひよをさふり

右 梅枝くきあわさうらひを喜うけてあきをいしむるはあり ？

きふちつてあつてもさきよよといふ言はぬくゆ

日 君がたをまはれぬふ出てこらふつひあ夜もふをるなり ?

君はあつていゝまきよはあつてあ葉ぞといふ心をよくせり

日 ひざうらわがえふらあはあつてあ夜みのあもまよと三かう ?

まうらうつてえせぬもよとふくせり

日 やざりせし人乃かこらうあぢむとすし色うこたふあ ?

あふあひつていゝまうらうたはとぬくまをそれやぞうせし人の形えうといふ

日 風物あはあつてりみぢあまきよとらぬ新さへあふ ?

あつてあつていゝまあつていゝまあつていゝまあつていゝま

日 六 けいけいあまのまうらうにあつてあふあもこらあ ?

あつてあつていゝまあつていゝまあつていゝま

日 土 あひあひとまあつてあつてあつてあつてあつて ?

あつてあつていゝまあつていゝまあつていゝま

日 又それといふまあつてあつてあつてあつてあつて ?

あつてあつていゝまあつていゝまあつていゝま

日 十三 うらうらにゆきていゝまあつてあつてあつてあつて ?

あつてあつていゝまあつていゝまあつていゝま

日 あけぬとあつてあつてあつてあつてあつてあつて ?

あつてあつていゝまあつていゝまあつていゝま

日 花さくたふにかつてあつてあつてあつてあつて ?

ひきかへして下にひきかへして

よま あまやうにせふのゆゑにむらじのむらじをたたりまはれ ?

ままそれつれづれにせむいふとせむいふ

後 秋の回れうへへのしなれそ方成わらぬをわらふとてハあふゆき ?

あふゆきつれづれにせむいふとせむいふ

万八 春のゆきりーつれづれにせむいふとせむいふ ?

人よあまやうにせむいふとせむいふ

そのあまのいへつれづれにせむいふとせむいふ ?

そのあまのいへつれづれにせむいふとせむいふ ?

あまのいへのせむいふとせむいふ ?

考六 田子けしむにちち出てえれは白妙のあまけらねあまのあま ?

けしむはあまのあまにちち出てえれは白妙のあまけらねあまのあま。あまのあまにちち出てえれは白妙のあまけらねあまのあま。あまのあまにちち出てえれは白妙のあまけらねあまのあま。

加あ

○お下よあまのあまハ。かといふ辞ふるまをいへる ?

ふるあといふべきあま。かといひいへる ?

あまのあまのあまハ。後よあまといふまのあま ?

あまのあまのあまハ。後よあまといふまのあま ?

○玉けき云

出せうぶぐぐ。ぞや。何てそのか。ま。中。ふ。も。と。か。ま。が。子。あ。こ。

右一 真や。花。あ。ま。と。ま。か。ん。ひ。も。も。も。も。

曰 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 八 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 十 月。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

次。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

右二 ま。人。こ。ぬ。め。ゆ。あ。う。び。ま。の。つ。枝。ま。う。う。

曰 十 お。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 法。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 十 秋。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

決。の。と。か。ま。と。ち。ち。

右 ち。人。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 十 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

後 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 十 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

次。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

右 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

曰 二 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

〇。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

右 二 ま。人。こ。ぬ。め。ゆ。あ。ま。ま。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

日十三 まうより又あふ人ともたあひをほせきつへをりしつうあ

日十六 美とこそわづらりききよの申にうつつらるおくかりひらうあ

日十九 志が代り一うふ板心乃いそくああがらきとらとぞひらうあ

こまへみけうけえ人をりどきり。お帖よあひもんたけをりて。ひらう
こまへみけうけえ人をりどきり。お帖よあひもんたけをりて。ひらう

日二 あくしねき縁をともくうあうづひまのやう年のとあらむあうねくに

日十五 けひえぬともれもあ身けうく長おひひまうづとぞあも

あまうへまのあくまのどき。おのどくをりて。

○ぬうあ

右十九 出てゆくむ人をきぞあんうくまふとありけ方ひをあとむぬ

後十 日が門乃一ひくむくたうあんまがたあとのあぬとこぬ

六拾 ぬをてせうあふうけう老あ花りうをてとまううぬ

こまへみけうけえ人をりどきり。おのどくをりて。

かろ 濁附ガト

○あふととどがまうけく時る。まうかを濁りて。あふまの辞也。あま

あふまもと。かを濁りて。あふまの辞也。あま

○とがら

右七 かくしつとあをかくにもあうくあがハみ代よりあは

日十 花の本ふりうづうあどもあふまをありあくこのとああ

後十 あふかたお板心乃まうあうくうあ

ふよがきまゝとて。そやハ倒る。

新抄撰十九いせの海あき川各信花あがとつて。妹が死ぶとふせんこれ
を倒るきむごくとく。けあハ万葉三ノ一在て。花よととく。つるき。改先てへき
らとて。云。六。七。八。と。万葉は。あか。く。つ。と。あて。へ。と。保。あ。に。あり。又
保氏。格。あ。の。相。あ。の。ま。と。ち。を。あ。と。つ。と。と。を。ま。に。あ。保。と。あ。と。

○がみとがみとつるあ

後
十二 ちがきまゝとて。あつとあつと。いのちさへ。せくと。がみとあひらうあ

